

法人名	社会福祉法人 白百合会
施設名	白百合乳児保育園

発表者名 (職名)	諸岡 舞 保育士	住所	横浜市神奈川区亀住町9-5		
発表者名 (職名)		TEL	045-461-5031	FAX	045-453-3271
発表者名 (職名)		メールアドレス	sirayuri-akaiyane@cyber.ocn.ne.jp		
		URL	http://shirayuri-nyuuji.com/		
		定員	100名	職員数	33名

### 発表の概要・内容

1年目に0歳児で受け持った子どもたちを初めての5歳児クラスで受け持ちました。「これでいいの？これは『ふつう』の姿なの？」と悩みながら関わった1年の実践です。

#### <春>

「たいようさんだから！」と年長になったことの喜びを口々に言っていました。トラブルがあっても知らん顔、自分が良ければそれでいいという子、中には暴言を吐いたり、自分の気持ちをうまく言えず手が出たり、物を投げる子どももいたり、全体的に幼い子どもが多いクラスでした。

#### <夏～秋>

お泊りやプールなどを通して少しずつ自分自身と向き合いながら夏を過ごし、秋の運動会では全員で行うダンスを子ども達が選んでソーラン節になりました。でもあまり気持ちが入らず、私が前で踊っていなければ踊れない状態で、いつこの子たちはスイッチが入るのかなと不安に思いながら過ごしていました。

運動会の予行練習の後どうだったか話し合い、「全員でやりたいからもう一回ソーラン節を練習しよう！」とほとんどの子はやる気になったのに、大声をあげて外を見める子、遊びだそうとしていた子も。「全員でやりたい」と話し合ってたはずだったけれど、みんなではなかった、そしてそれを見ても何も言わない、周りの「自分がやっていたらいい」という姿も見え悲しくなりました。「この状態だったらやらなくてもいいと思う！」と思わず言って、他の保育士に入ってもらい少しの時間と距離を置きました。「先生怒ってた」「悲しそうだった」「だって〇〇君たちがやろうって言ったのに遊んでたからじゃない？」「どうしよう」と真剣に話す子どもたち。「じゃあどうすればいいかな？」と他の保育士が一人ひとりの気持ちを聞きました。話が終わり、子どもたちと向き合ったとき、私も自分の気持ちを素直に子どもたちに伝えました。いつもおふざけをする話し合いが苦手な子も、しっかりと目が合って話が出来たことを覚えています。その日から少しずつ姿勢が変わってきました。子ども同士で感化され更に変わっていき、1週間前みんなの気持ちが前にきました。運動会本番、最初に想像していたよりは揃っていないし大きい動きでもない、でも一生懸命声を出して私がいなくても自信をもって踊り、何より自分だけでなくみんなでやりきろうとする姿に感動しました。



#### <年が明けて>

「卒園までに何をしたい？」と話し合いをしました。まだ集団になりきれていない子ども達に、自分たちで作り上げる喜びを最後にみんなで感じてほしい思っていたからです。様々な意見が出た中、「たいよう運動会」と決まりました。子どもたちがどうしたいか考えていき、全員で行うもの、参加するか参加しないかを選ぶものもありました。

秋の運動会の跳び箱の取り組みでは「もうやらない」とすぐにあきらめていたYちゃんも「やってみる」と始めました。クラスの中で「Yちゃんはやらない子」というイメージがありました。繰り返しやっていく中でコツをつかみ、「みてて！」と自信をもって跳ぶようになりました。友だちに教えてもらうことが多かったYちゃんが「こうやるんだよ！」と更に友だちに見せて教えることもありました。

自分たちで決めた集団で過ごしてきたからこそ、お互いの目標に向かってやる姿も認め合い「自分ができる」「あの子ってここがステキ」と伝えあうことが出来、個の育ちが集団を大きくさせ、集団の育ちが個を育てていくことを実感しました。



1年間常に自分の言葉や伝え方はもっとあったのではないかと思います。年明けからは自分自身も気持ちが前向きに子どもと楽しみながら毎日を大切に過ごして来られ、子どもも毎日が「今日も特別な日！」「明日は〇〇！楽しみ」と帰って行っていました。卒園した今、「先生！」とランドセルを背負って少し照れ笑いしながら話してくれる子どもたちとの出会いは、かけがえのないものだったのだと思います。